

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8 - 1 - 1 : 大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現に相応しい施設・設備(例えば、校地、運動場、体育館、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、図書館その他附属施設等が考えられる)が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

【観点到る状況】

本学は高い知性と豊かな教養を備えた人材、とりわけ人間形成に関する専門的力量を備えた有能な教育者を育てる場として、147,060 m²の校地(校舎等敷地 87,896 m²、屋外体育施設用地 26,537 m²、附属校園用地 32,627 m²)と延べ 31,943 m²の校舎(教育研究施設、共通施設)を保有する。教育研究施設は渡り廊下により接続された 7 棟の研究棟、また、研究棟に接続された講義棟、別棟の学術情報研究センターの図書館、情報館、教育資料館の 3 棟、教育実践総合センターからなる。また、講堂、体育館、武道場、舞踏室、課外活動施設、学生会館等の共通施設がある。屋外体育施設として、多目的運動場、テニスコート、弓道場、プール等があり、屋内体育施設とともに整備している。

講義棟 1・2号棟は、平成 11 年度に使用状況調査を行い、その結果を基に平成 12 年に中教室を小・中教室に改修がなされた。講義室 27 室(総面積 2,067 m²、収容人数 1,765 人)の稼働率は 63%となっている。少人数教育が主で、大教室は 1 室のみ。情報館には実習室(2 室)が設置されている。

これらの教育・研究施設についての使用状況調査は、平成 12 年度に行った。平成 17 年度に再度使用状況調査を行い、使用者一覧表を作成した。平成 18 年度は現地調査を行い、教員研究室、実験実習室、大学院生室、共同利用スペース等の点検・評価を行った。稼働率の低い講義室、実験室等は共同利用スペースとし、退職した教員の研究室は学長預かりとし、「奈良教育大学施設の有効活用に関する要項」に基づいて期限を定めて貸し出している。

また、施設・設備のバリアフリー化については、講義室、研究棟についてはスロープ、エレベーターが設置されている。身障者トイレについても構内案内板に位置を明示しており、身障者トイレは随時改修を行ってキャンパスアメニティ環境を良くするようにしている。学生の自主学習用や議論の場として、学内に学生オフィス、交流ラウンジ、共同利用の情報室が配置されている。

これらの施設のうち特に学術情報研究センターは、教育と研究の要として、教員・学生・地域に広く活用され、本学の知的活動の中心の場として機能している。センターは、図書館部門、情報基盤部門、研究開発部門の 3 部門からなり、施設として、図書館、情報館、教育資料館の 3 棟を有する。学内の研究成果をインターネットで発信したり、情報システムを活かした教育の研究などを担っている。図書館は、総面積 2,396 m²であり、194 席の閲覧席を有している。平日は、9:00~21:00、共同パソコン室は、9:00~20:30、土曜日は、10:00~17:00、日曜日・祝日は休館であるが、試験前 3 週間・試験期は、10:00~17:00 の間、開館している(資料 8 - 1 - 1 - A)。

資料 8 - 1 - 1 - A 図書館開館時間（時間外開館）一覧表（〔 〕はパソコン室）

年度	平日（月～金）		土曜日	日曜日・祝日
	授業期間	教育実習期間		試験期
平成 15 年度	9:00～20:00 [9:00～18:00] 後期(10月)から 9:00～22:00 [9:00～21:00]	9:00～20:00 [9:00～18:00]	10:00～17:00 [閉室]	休館
平成 16 年度	9:00～22:00 [9:00～21:00]	9:00～22:00 [9:00～21:00]	10:00～17:00 [閉室]	休館
平成 17 年度	9:00～21:00 [9:00～20:30]	9:00～20:00 [9:00～19:30]	10:00～17:00 [10:00～16:30]	(試験前 1 週間・試験期) 10:00～17:00 [10:00～16:30]
平成 18 年度	9:00～21:00 [9:00～20:30]	9:00～20:00 [9:00～19:30]	10:00～17:00 [10:00～16:30]	(試験前 3 週間・試験期) 10:00～17:00 [10:00～16:30]

備考：(1) 休業期は、平日（月～金）の 9:00～17:00 開館。土・日・休日は休館。

(2) 時間外の閲覧業務は、各日 2 名（時間雇用職員）勤務。

(3) 平成 15 年度後期（10 月）からは、時間外開館日の月曜日と、金曜日については、2 名のうち 1 名は図書館職員が時差出勤で勤務。

図書館は約 30 万冊の蔵書を有し、教育研究活動の支援や学生の自主学習の支援を行っている（資料 8 - 1 - 1 - B）。各分野にわたる専門図書の中でも教育関係図書が多いのが特徴であり、閲覧・貸出のほか参考業務、文献検索、他図書館との相互利用（文献複写及び現物貸借）などに活用されている。情報検索用機器として、図書館システム検索専用端末（OPAC）、インターネット接続パソコンを導入して、学内 LAN を介しての学外データベース CiNii や電子ジャーナルの利用のほか、スタンドアローンでの CD-ROM 資料の利用環境を提供している。検索端末は図書館内に設置しているが、各研究室及び学内にあるパーソナルコンピュータで、学内 LAN に接続されている端末であれば機種を問わず、検索が可能である。さらに、図書館内の視聴覚設備として AV コーナーを設け、CD、LD、DVD、VTR 等のコンテンツが利用できる。また、放送大学の受信設備を設置し、放送大学の講座を視聴することができる。

資料 8 - 1 - 1 - B 資料蔵書受入統計

蔵書冊数（平成 18 年 3 月 31 日現在）

和書	洋書	合計
256,915 冊	44,994 冊	301,909 冊

雑誌所蔵種類数（平成 18 年 3 月 31 日現在）

和雑誌	洋雑誌	合計
4,722 種	678 種	5,400 種

視聴覚資料所蔵数（平成 18 年 3 月 31 日現在）

マイクロフィルム	マイクロフィッシュ	フロッピー [®]	ビデオテープ [®]	CD・LD・DVD	レコード [®]	映画フィルム	スライド [®]	CD-ROM DVD-ROM
10	2	13	34	136	8	3	15	37

図書受入冊数・雑誌受入種類数（平成 17 年度）

区分	和				洋				合計
	購入	寄贈	製本	計	購入	寄贈	製本	計	
図書（冊数）	5,386	1,280	172	6,838	196	18	101	315	7,153
雑誌（種類数）	289	1,374		1,663	154	18		172	1,835

正面玄関に入退館システムを導入しており、入館システムにより入館者チェックを行い、詳細な図書館利用者の把握を行っている。退館システムではブックディテクションを通過することにより、貸出処理を終えていない図書館資料の無断持ち出しを防止している。また、図書自動貸出システムを導入し、利用者が自分で図書を借り出すことが可能である。図書館職員の業務軽減と、利用者へのサービス向上となっている。

図書館は、正面玄関から閲覧室までが段差無しフラット構造で、車椅子でも容易に利用が可能である。また、重量のある前後開閉式の扉から自動扉になり車椅子による入館が容易となった。ただし、この玄関までの坂道があり、ここに至るまでのバリアフリー化の検討が必要である。

平成 17 年 6 月、図書館内の一角に、絵本に親しむ「えほんのひろば」を開設した。毎週水曜日の午後に地域開放しているほか、学生を含むスタッフが蔵書と書架・面展台持参で小学校などを訪問して「えほんのひろば」を再現する出前サービスを行ったり、公開講座や絵本に関心のある人が絵本をテーマに意見交換・情報交換する場も提供したりしている。さらに、学部授業科目の障害児保育論及び大学院授業科目の保育内容論演習を行うなど教員志望の学生の教育支援を柱に、地域の子育て支援や地域連携も視野に入れた多彩な活動を展開している（別添資料 8 - 1 1 - 1）。

情報館は、3階建て建物面積 772 m²を有し、学内共同教育研究施設として、コンピュータ&ネットワークシステムを整備運用し、教育・研究のための共同利用の場を提供している。WWW、e-mail をはじめとした学内ネットワークのサービスを行うとともに、教育・研究のための学内情報ネットワークの整備運用、及び学外の情報ネットワークとの接続運用を行っており、学内 9ヶ所・計 244 台の共同利用 PC と 4ヶ所のプリンターステーション（カラー機（情報館 3 F 実習室、情報館 2 F 実習室）、モノクロ機（図書館パソコン室、講義棟 301 パソコン室））を利用することができる。在学生は 1 年間 700 ポイントまでの印刷が可能である（モノクロ印刷は 1 枚 1 ポイント カラー印刷は 1 枚 4 ポイント。用紙はセンターが補給）。

共同利用 PC は、学生 ID によるログオン認証と、最新のウィルス対策ソフトによる検疫体制をセキュリティの基礎としている。また、統合ソフトをはじめエディタやビルダー、WWW ブラウザなど学生の教育・研究活動を支えるソフトウェアを充実させている。情報館内には、情報処理教育・情報教育用として、実習室に 83 台、演習室に 23 台の共同利用 PC と 2 台のカラーレーザープリンタが設置されている。学校現場で多く利用されている教育用ソフトや学習コンテンツを整備してある。演習室に設置の共同利用 PC には、Adobe Illustrator CS、Photoshop CS といったソフトウェアがインストールされており、美術科の教科専門科目や、学外講師を招いた講習会等に積極的に利用されている（別添資料 8 - 1 1 - 2）。

教育資料館は、建物の面積 360 m²を有し、本学学校史に関する資料、我が国の学制発足以降における奈良県下

の初等中等教育に関する資料を中心として、教育関係資料を収集、整理し、これを展示・保管している（別添資料 8 - 1 - 1 - 3）。さらに、教員の美術工芸作品の展示等の利用に供するとともに、教育・研究発表の場として展示等にも活用されている。また、世界遺産関係の DVD を鑑賞する世界遺産ミニシアターも設置されている（別添資料 8 - 1 - 1 - 4）。

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況と以下の事実により、教育・研究の目標達成に必要なかつ十分な施設・設備が整備され、有効に活用されているといえる。

本学の校地面積は、基準面積 11,450 m² の約 10 倍であり、校舎面積は、基準面積 11,221 m² の約 3 倍あり、大学基準の規定に適合している。

講義棟の講義室の全室に冷暖房用空調設備が設置され、良好な教育環境を確保している。

学生の居住環境向上のため、学生オフィス、交流ラウンジ、共用情報室を設置している。

施設・設備のバリアフリー化については、講義室・研究棟にスロープ・エレベータを設置しており、身障者用トイレの場所を明示している。ただし、図書館玄関に至る道のバリアフリー化の必要がある。

観点に係る状況のとおり、学術情報研究センター図書館、情報館及び教育資料館なども適切に整備、活用されている。

観点 8 - 1 - 2：教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが適切に整備され、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

キャンパス情報ネットワークは、平成 7 年 3 月に学内 LAN (Local Area Network) が敷設され、平成 8 年 2 月には当時の図書館システムと学内 LAN を接続した。現在は、全棟を光ファイバ(1000BASE-LX, 1000BASE-SX 等)により高速通信できるように整備しているとともに、遠隔地の寮とは、指向性の無線 LAN によって接続している。キャンパス情報ネットワークは、学外接続として、広域イーサネット(100Mbps)により、同志社大学 NOC を経由して学術情報ネットワーク(SINET)に接続している。教育・研究活動の利用をはじめ、研究情報の交流、地域・学校現場・企業等への各種情報発信等に利用されている。その際、安全に学外へ情報提供できるように、Firewall を整備運用している。この仕組みは、学内から学外へ不正アクセス等の迷惑行為が行えない仕組みとしても機能させている。キャンパス情報ネットワークには、あらかじめ登録された PC のみが接続できるようにする環境の整備は完了しており試行的に運用を開始している。このように、本学における情報アクセスの環境については、学内 LAN 及びアクセス機器に関してはほぼ整備されていると思われる。

また、共同利用 PC として、資料 8 - 1 - 2 - A (次頁) に示す設置場所に合計 244 台 (PC 1 台あたり学生 4.6 人) を配置し、学生の教育・研究活動に提供している。これらにより、学生は学生生活に必要な情報の収集だけでなく、レポート作成、メールの利用、学術情報の検索・収集などができる環境となっている。

資料8 - 1 - 2 - A 共同利用PC設置場所

設置場所	PC	備考	固有のソフトウェア
管理棟 1F 「就職情報コーナー」	10 台		
情報館 3F 「3F 実習室」	83 台		AC3D、VRML
情報館 2F 「2F 実習室」	23 台		AC3D、VRML、Photoshop-CE、 Illustrator-CE、Corel Painter-Ess
教育実践センター 「メディアルーム」	15 台	SONY-VAIO	Premier/ビデオ編集 一部の共通ソフトウェアは利用できません
図書館 「エントランス」 「パソコン室」	33 台	授業期間の土曜日利用可、 平日 8:30PM まで利用可	
新館 3号棟 2F 「数学計算機室」	15 台		AC3D、VRML
新館 2号棟 3F 「教育調査室」	15 台		一太郎
文科棟 1F 「情報サテライト」	10 台	8:30PM まで利用可	一部の共通ソフトウェアは利用できません
講義棟 「301 パソコン室」	40 台	8:30PM まで利用可	
合 計	244 台		

大学院研究科共通科目については、ビデオ収録した授業を後日、見ることができるようにし、現職教員などに提供している。

卒業生調査（平成 10 年度、平成 14 年度）の「コンピュータ設備の充実・整備」及び平成 17 年度在学生調査の「コンピュータ施設」に関しては、資料 8 - 1 - 2 - B のとおり調査結果が得られている。

資料 8 - 1 - 2 - B

	とても満足+まあ満足	あまり+まったく不満足
コンピュータ設備の充実・整備 (平成 10 年度)	28.6%	43.8%
コンピュータ設備の充実・整備 (平成 14 年度)	14.3%	35.3%
コンピュータ施設(平成 17 年度)	70.1%	15.0%

近年、学内の利用内容の高度化・多様化がより一層進み、ファイルサーバーの増強と安全対策に対する需要は高まっていた。このため、今後の本学における学術研究および情報処理教育活動を一層支援することを目指し、情報システムを平成 17 年 2 月に更新した。また、この更新において、WebCT を導入し、授業に対するホームページを作り、授業に対する学生からの意見を集めることができる環境を整えた。

情報ネットワークを利用するための情報セキュリティポリシー及びキャンパスネットワーク利用規則等は、平成 18 年度中に整備を行う予定である。

情報処理教育用として、実習室に 83 台、演習室に 23 台の共同利用パソコンと 2 台のカラーレーザープリンタが設置されている。また、講義棟の情報サテライト及び教室には、学内 LAN に接続された 50 台の共同利用パソコ

ンが設置されている。

【分析結果とその根拠理由】

情報インフラとしてのキャンパスネットワークは、学生の快適な利用環境を与えている。情報アクセスの利便性はと高速性は、他の国立大学と比べても遜色はない。全1回生に課せられた学部共通科目「情報機器の操作」を履修した学生のWebよりの情報収集と検索、レポート作成、メール送受信等に応える体制となっている。情報関連の授業実施中であっても、端末利用上の負荷を感じさせない優れたネットワーク環境であると判断できる。

観点8-1-3：施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、構成員に周知されているか。

【観点到に係る状況】

本学における施設・設備の運用については、学内規則等で明確に規定し、これらの規則等は大学のホームページに掲載している(資料8-1-3)。教職員への使用方法・案内は、大学のホームページに掲載し、また、施設によってはパンフレットを作成している。一方、学生に対しては、入学時に「学生生活」(冊子)を全員に配布し周知している(冊子5-1-5)。

資料8-1-3 大学ホームページ『奈良教育大学規則集』に掲載している施設・設備の関係規程

<ul style="list-style-type: none"> ・奈良教育大学学生会館規則 ・奈良教育大学学生会館使用細則 ・奈良教育大学寄宿舎規則 ・奈良教育大学国際学生宿舎規則 ・奈良教育大学国際交流室使用規則 ・奈良教育大学学生オフィス使用規則 ・奈良教育大学大学院生研究室使用規則 ・奈良教育大学共同演習室使用規則 ・奈良教育大学共同実験・演習室使用規則 ・奈良教育大学情報サテライト室使用規則 	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良教育大学学術情報研究センター図書館利用規則 ・奈良教育大学学術情報研究センター図書館文献複写規則 ・奈良教育大学学術情報研究センター図書館利用細則 ・奈良教育大学学術情報研究センター情報館利用細則 ・奈良教育大学学術情報研究センター教育資料館利用細則 ・国立大学法人奈良教育大学講堂使用要領 ・国立大学法人奈良教育大学講堂使用細則 ・国立大学法人奈良教育大学職員会館使用要領 ・国立大学法人奈良教育大学施設使用要領
--	--

教育研究に関わる各施設については、設置の目的を学内規則で明確に規定している。これらの施設の運用規程等はすべて、大学のホームページか、各施設のホームページに記載されている。共同利用施設は、利用申請手続きをはじめ、教職員・学生が施設・設備を利用するための「利用細則等」を、各施設のホームページに掲載している。特に、学生には、全員に配付する「学生生活」ガイドブックの中に学内施設の案内を掲載して周知を図っている。

図書館は、「図書館利用案内」の冊子を用意し、新入生に対して、図書館利用のガイダンスを実施しているほか、新入生は必修科目「情報機器の操作」の中で、コンピュータの基本操作や情報モラル、学内ネットワークの利用等について学習する(別添資料8-1-3-1、8-1-3-2)(冊子8-1-3)。

【分析結果とその根拠理由】

本学における施設・設備について、運用方針等が規定され、全てホームページや冊子で公表されており、構成員に対して周知されている。各施設・設備について運用規程や運用規則等が明確に規定され、すべてホームページか、冊子で公表されており、構成員に周知されていると判断できる。

観点 8 - 2 - 1 : 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

現在、本学には約 30 万冊の図書、逐次刊行物 5,400 誌、電子ジャーナル 1,183 誌、視聴覚資料 164 タイトル、また、各教科に関する科目に係る図書及び教職に関する科目に係る図書 192,156 冊や、貴重書、各種コレクションを収集所蔵し、学内外の利用に供している。また、紙雑誌の他電子ジャーナルの提供誌数の増を図っているところである。これらの電子ジャーナルの利用度は着実に増加しており、学内の情報基盤として定着し、重要な役割を果たしている。視聴覚資料に関しては、学習教材として使用するものから教養関係まで、また媒体別には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、ビデオ、カセットテープ、レコード、映画フィルム、CD、LD、DVD、スライド、CD-ROM、DVD-ROM など幅広く収集し利用に供している。

図書館では以前から推薦図書制度を設けており、講義に関連する図書や学生の教養を高める図書について教職員、学生からの推薦を随時受け付けており、図書館資料の充実を図っているところである。教員研究費で購入する研究用図書は、各教員の選定により購入し、その大半は各研究室に配置されている。図書館配分予算で購入する学術雑誌、図書、視聴覚資料及び推薦された図書等は、学術情報研究センター運営委員会で予算の範囲内で選定して購入している。

学生生活実態調査において、図書館の図書が全般的に古いことが指摘され、各分野の専門図書の充実、自然科学系新刊図書の充実への要望が出された。各教員に対し、限られた図書購入費の中で学生の切実な要求に応えられる図書を備えるため、各専攻分野における学習の必読図書・参考資料として学生に薦めていただく図書の推薦を依頼している（別添資料 8 - 2 - 1 - 1）。

教科書・指導書については、教育実習用として、奈良市内の主要小・中・高等学校が使用する教科書を主に購入している。小学校・中学校は本学附属校、奈良市教育委員会採用の教科書を各科目 3 冊ずつ、採用されていない教科書も各科目全種類を 1 冊ずつ購入している。高等学校は各科目 1 種類 1 冊購入している。指導書は、教科書に比べて高額であるため、附属小・中学校、教育委員会採用分各 1 冊、高校は購入した教科書対応分各 1 冊を購入し、教科書・指導書コーナーを設けて学生の利用の便に供している。

シラバス図書については、各授業科目を担当している教員が、履修する学生のために必読すべき図書、又は参考として読むべき図書として指定したものを整備し、シラバス図書コーナーを設けて学生の利用に供している。

人権教育関係図書・郷土関係資料について、本学は人権教育関係図書と郷土関係資料の収集に意を注いでおり、充実した蔵書を有している。これらの蔵書は、現職教員や広く地域住民への学術資料提供にも資すること大である。

このように図書館として、利用者の役に立つ蔵書構築を目指すことを基本とし、シラバス掲載資料や授業に必要な参考資料等、学習環境の整備のために必要なものについて購入を図っている。

これらの図書資料の利用は、平成 17 年度は、年間貸出冊数約 16,156 冊余りにのぼり、これを単純計算すると約 1,350 名の学生 1 人あたりの貸出冊数は約 12 冊となる（別添資料 8 - 2 - 1 - 2）。

現代の利用者の多様な資料要求に応えるためには、単館でのサービスには限界があるため、全国の大学が資料提供面で図書館間の相互協力を実施している。本学でも必要な資料を収集提供することとしているが、不足部分に関しては、この協力を通じて利用者の要求に応えることを行っている。平成 17 年度実績として、図書館資料の貸借では、本学から貸し出したもの 110 冊、本学が借り受けたもの 121 冊である。また、文献複写サービスでは、本学が受け付けたもの 969 件、本学から依頼したもの 1,026 件という状況である。

このほか、資料管理面では効率的で確実な資料提供につながるよう蔵書点検を行い、蔵書データ (OPAC) と図書資料の所在情報データをマッチングさせ、確実な利用につながるよう整備を進めている。また、大学改革に基づく開かれた大学を目指して、図書館では公共図書館に対しても文献複写や現物貸借等の相互利用を積極的に行っている。

本学は、学術研究成果を学術情報研究センターが中心となり蓄積保存し、インターネットを通じて利用者の便に広く供する「機関リポジトリ」への取組が次世代学術コンテンツ基盤構築事業委託事業として採択された。

本学の「中期目標・中期計画」において、教育に必要な設備、図書館、情報ネットワーク等の活用・整備の具体的方策として、「図書館による教育研究図書・資料の系統的整備を行うとともに、資料のデータベース化の促進と Web による検索利用機能の強化等、情報ネットワークを整備する。」と記載している。

平成 17 年度に、高等教育と学術研究活動を支える学術研究基盤として、附属図書館、情報処理センター、教育資料館の機能を統合して、学術情報研究センターを設置した。図書館情報をはじめとして、電子情報によって教育研究活動を促進するための組織的な体制を整えた。

【分析結果とその根拠理由】

学術雑誌の安定供給と多様なサービスの提供が実現されており、図書、学術雑誌、視聴覚資料等、教育・研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されていると言える。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・ 課程認定大学実地視察において、実地視察委員の中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会の委員の方から、小学校及び中学校の教科書出版社の教科書を購入し、利用に供している点が評価されている。
- ・ 教育実習用として、奈良市内の主要小・中・高等学校が使用する教科書を主に購入している。小学校・中学校は本学附属校、奈良市教育委員会採用の教科書を各科目 3 冊ずつ、採用されていない教科書も各科目全種類を 1 冊ずつ購入している。
- ・ 学術情報研究センター図書館「えほんのひろば」は、よりよい絵本の環境をつくり上げたいと学生達と試行を重ねている。特色ある図書館づくりの一環として、幼児教育を学ぶ学生の教育支援と、絵本を読み聞かせる実践の場を提供しようと開設した。特に、附属学校園との連携教育、また地域の家庭教育の支援を目的に開設したものである。
- ・ 教育資料館が提供しているホームページ掲載の本学所蔵資料 (画像) が、出版物への掲載や放送で使用されるなど、資料の公開により、各方面で活用されている。
- ・ 施設・設備について、教育課程の実現に応える規模と種類は整備されている。また、それらの利用の方針や規則が明確に定められている。
- ・ 情報インフラとしてのキャンパスネットワークは、学生のレポート作成、情報検索、情報通信等、快適な利用環境を持っている。

【改善を要する点】

- ・ 蔵書の構成と充実について、本学では、「教職員及び学生等利用者にとって教育・研究活動に必要な資料を系統的に収集し、教員養成大学図書館として体系的で均整のとれた蔵書構成を図ることを目的とする」(奈良教育大学学術情報研究センター図書館図書資料収集方針)の主旨に従い、蔵書の充実に努めてきた。蔵書の構成としては、教員養成大学という特色上、文科系、理科系、芸術・体育系という広範な分野の蔵書構成を確立している。しかし、図書館資料費等の面から、基本図書を充実させるにも厳しい状態であり、アップトゥーデートに新刊図書を揃えるには困難な状況ではあるが、既に実施している教員推薦・学生推薦による図書購入を効果的に推進し、利用者の需要を的確に反映していきたい。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本学の高畑団地において、施設整備について十分に整備された環境であり、教育課程の実現に応えるべく、有効に利用されていると言える。集約的な団地という有利な立地条件もある。情報ネットワークは非常に整備され、学生の勉学への有効な支援機能を果たしている。

図書館予算で購入する図書、学術雑誌、視聴覚資料等の選定は、学術情報研究センター運営委員会の審議を経て選定する。学術情報研究センター図書館は、人員と予算の効率的な運用のために、利用者の役に立つ蔵書構築を目指すことを基本とし、シラバス掲載資料や授業に必要な参考資料等、学習環境の整備のために必要なものについて購入を図っている。また、学術文献・資料の電子版の導入を積極的に推進するとともに、利用講習会を積極的に開催して、学生、教職員の利便を図っている。

